

少年

第464号(1) 令和6年11月(霜月)発行



山梨県警察本部
生活安全部 人身安全・少年課
甲府市丸の内1-6-1
055-221-0110 内線3082
少年対策官 島口浩二

～伝える～

11月。山が赤や黄に色づき、自然、文化、伝統が交錯し多様な側面を見せる頃。子らの健やかな成長を願う諸々の慣わしに、地域との深いつながりを感じる時。



近頃、いわゆる「闇バイト」の実行者として電話詐欺や強盗等の罪を犯し、少年が加害者となる事件が数多く起きている。また、SNSを通じて知り合った相手により不同意性交等罪の被害に遭ったり、時には命に危険が及ぶ被害に遭う少年も後を絶たない。これらは新聞、テレビ、雑誌、ラジオ等によって取り上げられ、事件のてん末とともにその悲惨さや卑劣さが報道されている。しかし、かかわった少年の多くが「まさか・・・」、「知らなかった・・・」と口にしているように、犯行を思いとどまらせたり犯罪に巻き込まれたりしないための知識を得られていなかったと考えられる。このような少年たちを犯罪から守るためには、少年の傍らに寄り添いながら正しい情報を伝える身近な存在が必要なのである。

4大マスメディア（新聞・テレビ・雑誌・ラジオ）の中でも社会的信頼度が高い新聞だが、購読率がこの10年で半減しているいま、読む機会はほとんどなくなっている。「令和5年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査（総務省）」によると10代の新聞購読率は7.9%と低く、雑誌の購読率やテレビの視聴時間も減少傾向にある。最も利用している情報源であるインターネットのニュースサイトですら30%台、そもそもニュース記事を一切読まない割合が27.9%と十分な情報を得られているとは言い難い状況である。また、アルバイト情報を簡単に検索できるアプリ等が増え、地域、職種、時間や時給といった条件を入力すると簡単に仕事を探せることから、危険な募集情報に対する危機意識が低下しているとも考えられる。実際「特殊詐欺加害防止特設サイト（東京都）」の調査では、高校生の80%が特殊詐欺や闇バイトの募集に対し違和感を持たず応募してしまう危険性があると指摘している。

「コミュニケーション学の父」と呼ばれるウィルバー・シュラム（アメリカ）はマスメディアの役割について、「見張りの機能：社会環境の現状や変化に対し、情報を伝えて警告を発し見張りをする役割」、「討論の機能：社会の様々な視点から意見を集めて議論を促進させ、世論をつくる役割」、「教師の機能：社会的規範や価値観、知識、伝統や文化などを次の世代に繋ぐ役割」という3つの機能を挙げている。現代においても犯罪の抑止や社会全体の規範意識を育む効果が期待でき、その価値は大きいといえるだろう。そのようなマスメディアの重要性を伝えるとともに、少年の身近な存在である大人たちがそれぞれの立場から”伝える”ことが求められている。家庭では新聞やニュースで気になった事件について話題にするようにし、学校では朝の会や帰りの会などで取り上げる。地域の行事の場で伝えること等も有効である。少年たちにとって身近な存在である大人が知り得た情報や知識を正しく伝えていくことが、少年が犯罪に手を染めることなく被害者にもならず、それぞれの人生を豊かに過ごしていくことにつながるはずである。

まつり

この頃、あちらこちらで”まつり”が催されている。先日訪れたまつりでは、地区ごとに大人と子どもが一緒になって神輿を担いで会場を練り歩いていた。大人数の神輿もあれば数人の神輿もあり、すべての神輿が通り過ぎるまで長い行列を眺めていた。会場には地域の人による屋台が数多くあり、活気にあふれ、地域の力を感じた。心地よさを感じながらまつりを後にし、帰りがけに近所の神社に立ち寄った。そこには七五三参りに訪れる人のためにと、地元の高校生による生け花が飾られていた。

もともと神仏や祖先を祀ることを起源とする”まつり”。次第に五穀豊穰や無病息災を祈願するといった、人間の生活と強く結びついたものとなり、地域の伝統や文化として伝えられてきたという。地域が一つになってまつりを催し、子どもたちの健やかな成長を願う。そうやって大人たちがつながりを大切にしている地域で育つ子どもたちは、地域に見守られながら地域を大切にできる大人へと成長を遂げていくことであろう。地域のつながり、地域の力。永く大切にしていきたいものである。

第64回 山梨県中学生交通安全弁論大会

10月31日(木)、石和スコレーセンターにおいて「第64回山梨県中学生交通安全弁論大会」が開催されました。県下警察署管内で行われた地区大会の代表者12名と、前回大会優勝校である東桂中学校の代表者、開催協力校である石和中学校の代表者の計14名が出場しました。自らの体験などをもとに、中学生の視点で交通安全の大切さや交通事故のない社会になるために必要なことなどを訴えました。どの弁士もすばらしい内容と豊かな表現力で、聴衆の心に響く発表でした。

優勝 「『当たり前』で守る命」

甲斐市立敷島中学校 2年
丸山 美珠

目の前の信号が黄色に変わったとき、渡ろうとした横断歩道の信号が点滅していたとき、あなたならどうしますか。小さな頃から、そういうときは「止まらなさい」と当たり前で教わってきました。しかし、実際には黄色になってスピードを上げる車や、点滅していても渡りたくて走る人がたくさんいます。「赤信号を渡ったわけではないのだから、事故を起こしたわけではないのだから、別にいいのかな」とだんだん自分の中での当たり前が変わってきました。

そんな私の当り前の意識が大きく変わった出来事がありました。それは、とてもささいなことですが、しかし、私にとっては忘れられない、とても大切な出来事でした。

母と車で近所のスーパーに出かけたときの帰り道です。母が突然「あ！」と声を上げました。スーパーに忘れ物をしたというのです。とても大切なものだったらしく、急いでUターンをして、来た道を戻り始めました。普段はおしゃべりな母が口数も少なくなり、本当に焦っているというのが伝わってきました。そのとき、目の前の信号が黄色に変わりました。母はゆるやかにスピードを緩め、きちんと停止線まで止まりました。私は思わず「え、行っちゃえばいいじゃん」と口走りました。そのままのスピードで、黄色のうちに渡ることができたはずだと思ったからです。それでも母は「まあ、黄色だから。」と“当たり前”のように言い、青になるまで待ってから発進しました。そして、先ほどの取り乱し様から打って変わって、私を諭すように教えてくれました。

「ニュースで悲惨な事故を見るたびに、子を失った母親の悲痛な叫びを聞くたびに、私自身はもちろん、娘であるあなたや家族のみんなが、事故で命をなくしてしまったらどうしようと考えてしまうの。この乗り物は便利だけれど、人を簡単に傷つけ、命をも奪ってしまいかねない凶器なのよ。だから私はいつも運転をするときには、凶器に乗っているつもりで、簡単に人を傷つけてしまうこと、事故によって命を落とすというのは、決して遠い話ではないことを忘れてはいけないと思っているの。」

その話を聞いたとき、母を尊敬し、同時に自分を恥じました。“当たり前”を教わったはずの私は、いつの間にか事故を起こしてしまう考え方をしていたのです。当たり前は変わってしまうものです。母は、自分だけでなく、周りの人も含めた安全を一番とするのが“当たり前”でした。私もそうありたい、と強く思いました。

警察庁の調査によると、事故の主な原因は「安全運転義務違反」。それは、曲がるときに周囲の安全を確認することが足りなかったり、わき見運転をしてしまったりという注意不足の問題や、「だろー運転」といわれる、飛び出さないだろう、向こうが止まってくれるだろう、ゆずってくれるだろうと信じ込んでしまう意識の問題です。つまり、気を付けていれば防ぐことができた事故、ということです。

「みんなやっているし」「急いでいるから」「きっと自分は大丈夫だろう」私もそう思うってしまうことはたくさんあります。そんなときには、母の話を思い出します。どんなに急いでいたとしても、道路を使う以上、わたしたちも、あなたも、ルールを守る義務があります。「事故は一瞬、命は一生」。その「一瞬」を起こさないために、いつでも“当たり前”に正しい判断をしましょう。

当り前の対義語はなんでしょうか。それは、有ることが難しいと書く、「有り難い」だそうです。自分のことはもちろん、周りの人のことも大切にすることが当たり前になり、事故のない、有り難い世の中になることを望みます。

《大会成績結果》発表者のみなさん、素晴らしい発表をありがとうございました。

賞	氏名	中学校名/学年	演題	警察署
優勝	丸山 美珠	敷島/2年	「当たり前」で守る命	甲斐
準優勝	市瀬 楓	三珠/2年	心に「止まれ」の標識を	鯉沢
第3位	樋口英玲奈	石和/2年	あなたと私で守る	開催協力校
入賞 ※記載順 は発表順	芦澤 遼祐	白根巨摩/3年	交通安全3つのこだわり	南アルプス
	柳場 湊斗	勝沼/3年	「見守り」がつくる、安全な交通社会	日下部
	上原 朱座	早川/2年	高齢者が安全に運転するには	南部
	松岡 晃	小菅/3年	もしもの時を考えて	上野原
	金勝 諒	東桂/2年	想像する力	前回優勝校
	野沢 真由	北東/2年	身近な危険	甲府
	齊藤 虹羽	玉穂/2年	「いつも通り」を守り続ける	南甲府
	中村 莉緒	高根/3年	一歩先を考えて	北杜
	渡辺 宥和	御坂/2年	迷わない、一時停止に	笛吹
	相馬 乙葉	猿橋/3年	みんなの笑顔を守るために	大月
	古谷 陽彩	勝山/2年	母の言葉	富士吉田